

# 今後の取り組みについて

資料-2

## 1.現状と課題

真名川ダム下流河川の現状と課題を整理すると以下のものであり、課題の解決が求められる。

### 現状

真名川ダム建設後、以下の問題を抱えてる。

- ・水生生物の生息・生育空間の減少
- ・川らしい景観の変化
- ・河川敷等の固定化：ツルヨシの繁茂等
- ・滯筋の固定
- ・ダム地点から下流への土砂供給、流砂量の減少
- ・付着藻類の剥離更新の阻害

### 課題

抱える問題を解決していき、昔の真名川を取り戻すための取り組み(自然再生・河川環境改善)が必要。

例えば・・・

- ・樹林化の解消
- ・河道・水際の多様化
- ・土砂供給による土砂環境の改善
- ・魚類等の生息場の創出
  - ・陸域の湿潤化
- ・流況の改善

## 2.これまでの実績

課題に対して、これまで真名川ダム下流河川の河川環境改善・自然再生を目的として取り組んできた内容を整理すると、「フラッシュ放流」、「置土」、「自然再生試験」の3つに分類でき、それらの実施概要は以下の通りである。

実施した 取り組み	実施時期	実施日	実施内容				
			①フラッシュ 放流 ダムピーク 放流量 (m <sup>3</sup> /s)	②置土		③自然再生 試験	
				置土量 (m <sup>3</sup> )	置土場所		置土材料
①	洪水期	H15. 9. 30	30	—		—	
①+②	非洪水期	H16. 11. 15	50	約220	八千代橋 上流	貯水池上流 の堆積土	—
①	洪水期	H17. 8. 2	30	—		—	
①+②	非洪水期	H17. 12. 8	45	約200	君ヶ代橋 上流	河川敷の 掘削土	—
①+②	非洪水期	H18. 11. 15	45	約200	君ヶ代橋 上流	貯水池上流 の堆積土	—
①+②+③	非洪水期	H19. 11. 8	45	約330 +約650 (水路埋 戻し量)	君ヶ代橋 上流	貯水池上流 の堆積土 +河川敷の 掘削土	新水路の創出
①+②+③	非洪水期	H20. 11. 18	45	約100	君ヶ代橋 上流	河川敷の 掘削土	旧河道の再生

- ①：フラッシュ放流
- ②：置土
- ③：自然再生試験

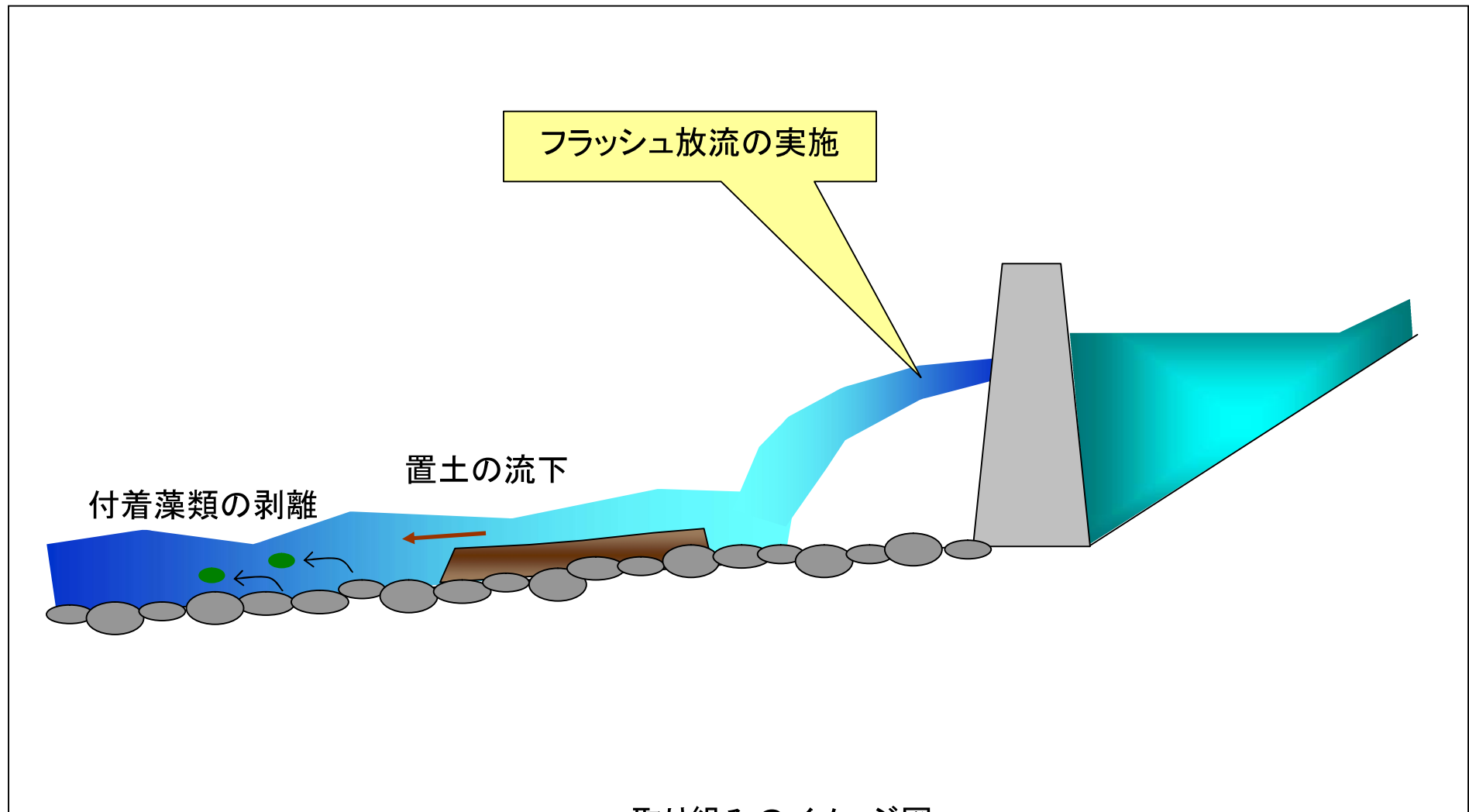
### 3.今後の取り組み(案)

今後の取り組み(案)については、本委員会で議論いただきたい。

#### 【 フラッシュ放流 】

望ましい取り組み		望ましい取り組みを実施した場合の		実績	今後の 取り組み(案)
		良い点、効果等	問題点等		
時期	アユ等魚類の成長前に付着藻類等を更新させることができる時期	春期	魚類の成長促進	容量の確保が困難	秋期(11月頃、安全性優先)
		夏期	出水期の河川攪乱 機会の増大	安全性の確保、アユ漁への影響	
		秋期	安全性の確保が容易	夏期に出水があればあまりフラッシュ効果が望めない	
ダム放流量、継続時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>河床変動が発生する流量</li> <li>置土を流下させることができる流量</li> <li>クレンジング効果が確保できる流量</li> </ul>	河床材料の更新やクレンジング効果	十分な容量(水量)の確保	45m <sup>3</sup> /sで2時間半程度継続	
安全性	ダム下流における水位上昇を30cm/30分以下に抑え、安全な放流の実施(警備員の配置、看板設置)	春期	安全性の確保が可能		<ul style="list-style-type: none"> <li>30cm/30分以下を確保できている</li> <li>秋期の実施においては安全性の問題は発生していない</li> </ul>
		夏期		これまで以上の安全対策が必要な可能性	
		秋期	安全性の確保が可能	現在の実施方法で特に問題なし	

# 【 フラッシュ放流 】

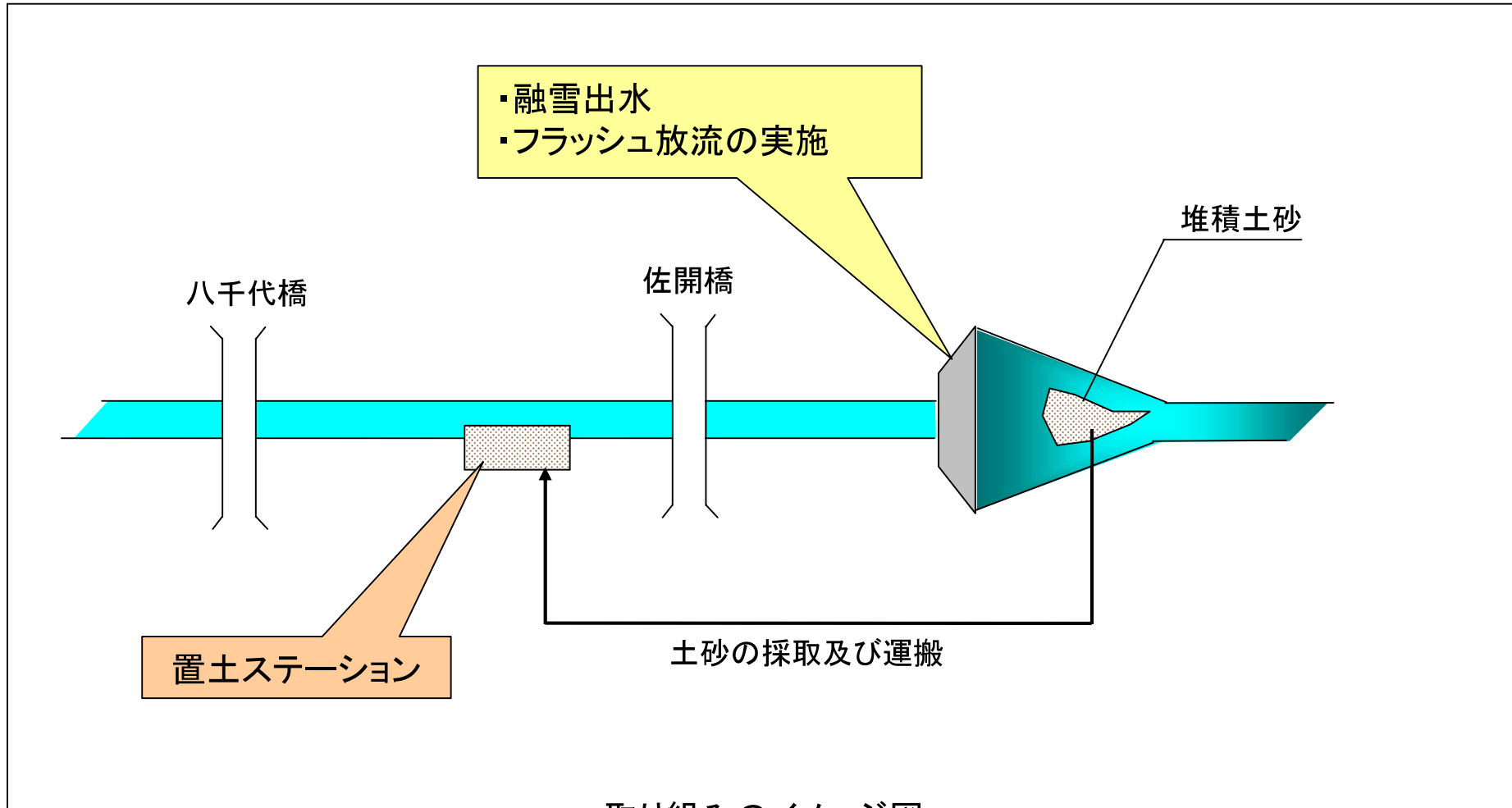


取り組みのイメージ図

【 置土 】

望ましい取り組み		望ましい取り組みを実施した場合の		実績	今後の 取り組み (案)
		良い点、効果等	問題点等		
時期	融雪出水時	より自然な形で置土を流下させることが可能	魚類の産卵へ影響	秋期(11月頃のフラッシュ放流時)	
	フラッシュ放流時	計画した流量を放流するため、土砂流送等の予測がある程度可能	魚類の産卵へ影響		
置土量	(土砂の連続性確保という観点を踏まえれば)ダムに堆積した土砂量に相当する量	ダム下流への土砂供給	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全量を流下させることが困難</li> <li>・ダムからの置土地点までの運搬が必要</li> </ul>	約100~200m <sup>3</sup>	
置土材料	ダムに堆積した土砂のうち砂分を中心とした材料	ダム下流へ選別して土砂を供給することが可能	適切な粒度のものを採取することが必要	貯水池上流の堆積土 河川敷の掘削土	
置土場所	置土によるクレンジング効果等を河川全川に及ぼすために出来るだけ上流側に設置	より広域にクレンジング効果等を発生させることが可能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適切な置土場所の確保</li> <li>・産卵場への影響</li> </ul>	君ヶ代橋上流 八千代橋上流	

【 置土 】

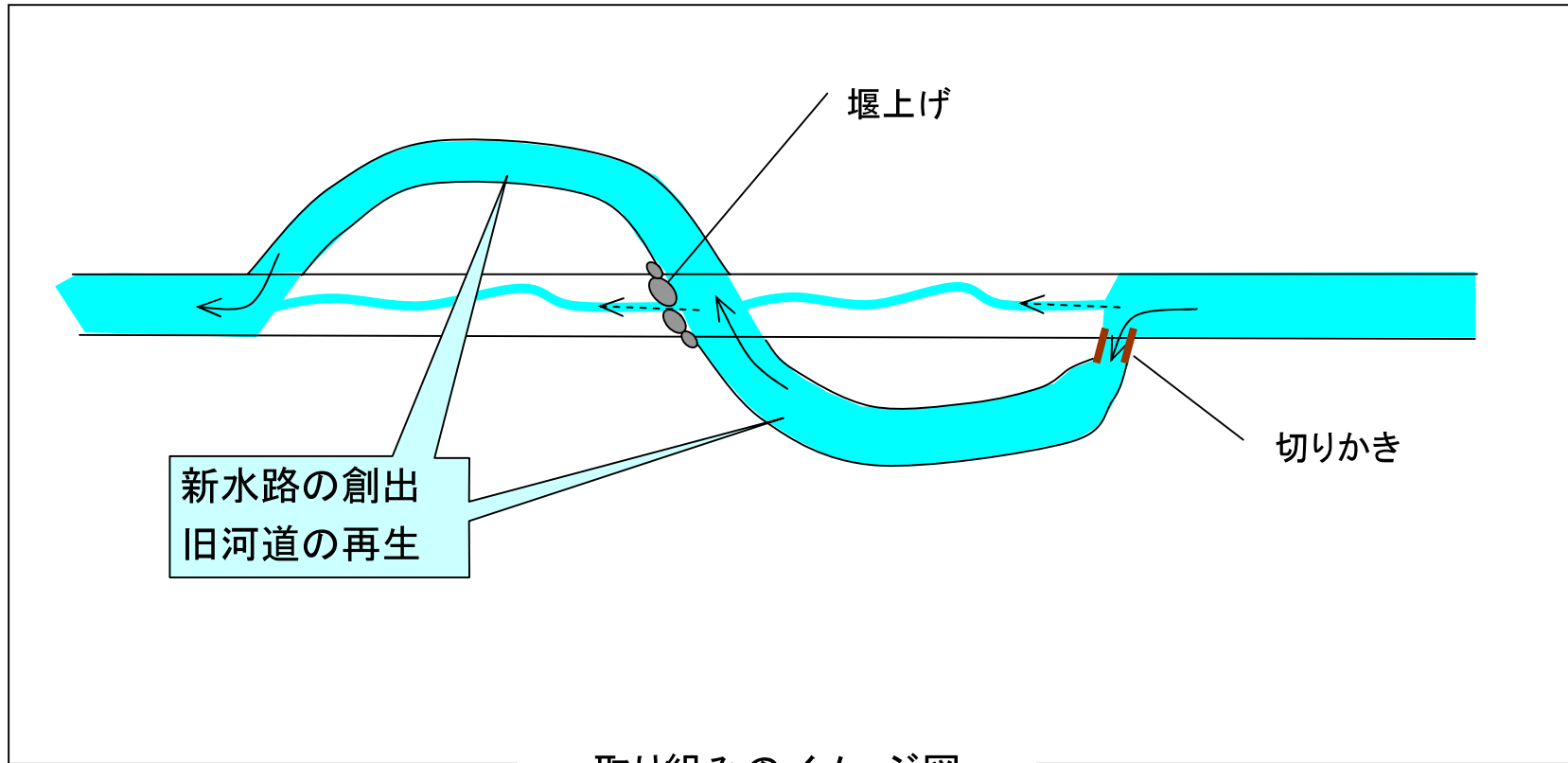


取り組みのイメージ図

【 自然再生 】

望ましい取り組み		望ましい取り組みを実施した場合の		実績	今後の 取り組み（案）
		良い点、効果等	問題点等		
実施方法	費用を掛けず小規模の 改変で河川の多様性を 確保	陸域部の湿潤化、 河道、水際の多様 化	アユの遡上への 影響	新水路への 導水 旧河道への 導水	

【 自然再生 】



取り組みのイメージ図